

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 泉州地域の皆様に、本校があって良かったと心から言ってもらえるような「地域の星」となる人材を輩出していく。「地域の星」とは学力のみならず、人間力（公共心、道徳心）、コミュニケーション力、活動力がバランスの取れた人材のことをいう。
- 設立当初に制定された校訓「真摯、闊達、友愛」と、「時を守り、礼を正し、場を清める」という新たな三つの約束を生徒に遵守させることにより、組織においてリーダーとなる人材を育成する。
- 将来、地域において教員、医療関係従事者（看護師、臨床検査技師等）、公務員（役所、警察官、消防士等）、弁護士、会計士、地元産業等、泉州地域に親しみ明日を担う人材を育成していく。
1. 公立高校として、知・徳・体のバランスを大切にし、将来、地域のリーダーとして活躍することができる人材を育成する。
 2. 経済的・家庭的に異なる様々な生徒に対応できる学校組織を構築していく。
 3. 「共生推進教室」が設置されている学校として、障がいのある生徒と「ともに学び、ともに育つ」ことを目標に成長していきます。
 4. 地域ならびに地元の小中学校と連携することにより、お互いを高めあい地域をリードする学校をめざす。

2 中期的目標

「地域をリードする公立高校」として、地域ならびに地元の小中学校と連携して、生徒が自主的に活動することにより「学力、コミュニケーション力、活動力」の3つの伸長を図る。また、教職員の共通理解のもと「文武両道」を提唱し、「学力、部活動、学校行事」の三本柱を充実させることにより生徒の自主的な活動を推進してきた。ここ数年は、4学区の中でも有数の人気校となり、学校説明会・学校見学会において、多くの中学生希望者を受け入れるまでになった。このように飛躍的に発展した理由は、様々な要因が考えられるが、その中でも制服変更、コース制実施、レインボープラン（土曜講座、学習合宿、自習室の解放、学力診断テスト、進路に応じた講習、夢設計手帳、海外語学研修）の実施、また、生徒の基本的な生活習慣を確立させるために多様な取組みを実施してきたことによると考える。今後、さらなる飛躍を行うために以下の目標を設定する。

1. 確かな学力の育成
 - (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習姿勢の変化に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」を展開する。
 - (2) 生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業をめざすとともに、教員の授業力の向上を図る。
 - ※ 学校教育自己診断による「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」を平成 31 年度には 75%以上にする。(H28 度 72.3%)
 - ※ 学校教育自己診断による「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」を平成 31 年度まで 85%以上を維持する。(H28 度 86.7%)
 - (3) 教員相互の研究授業等において、お互いが切磋琢磨して授業力の向上を図る。
 - (4) 「地域をリードする公立高校」をめざし、地元の小中学校と連携・協力をし、本校の「教育方針や教育内容」を地域・保護者の人たちに広く発信する。
2. 安全で安心な魅力ある学校づくりを行う
 - (1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。
 - ・年間特別指導件数を 10 件未満とする。
 - ・全教員による組織的登校指導を継続し、正しい通学マナーを身に付けさせる。
 - ・時間を守る規律指導を徹底し、生徒一人当たりの年間遅刻件数 4 件以内を目標とする。
 - (2) 在籍定員 969 名に対して、常時、960 名以上の在籍者があるように努力する。(H28 末在籍者 965)
 - (3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。
 - ・「高校生活支援カード」を有効に活用することにより生徒情報を収集し、ライフサポート室主宰の教育相談を積極的に行う。
 - ・クラブ入部率を増大させる。
 - ・生徒会活動を活性化させるとともに、様々なボランティア活動への参画をおこなう。
 - (4) 安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。地元警察と連携を図り、自転車事故・盗難予防のための計画的で継続的な指導を行う。
3. 個々の生徒が、目的意識を明確に持った進路指導を行う
 - (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。
 - ・平成 25 年度から導入した「生徒用スケジュール手帳（夢設計）」を積極的に活用する。
 - (2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語る生徒を育成する。
 - (3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
 - ・ICT機器を活用した授業を実践し、情報化社会に対応した適応力を身につけさせる。
 - ・海外修学旅行や海外語学研修を通じて、国際化社会に適用する人材を育成する。
 - (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。(H24 度：全員就職、H25 度：全員就職、H26 度：全員就職、H27 度：全員就職、H28：全員就職をめざす)
 - (5) 平成 29 年度には、国公立大学・関関同立大学 10 人以上、産近甲龍大学 60 人以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「確かな学力の育成」 「授業が わかりやすく、楽しい」が 66%、「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」が 72%となっている。「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は 88%となった。一昨年度より実施している「公開研究授業大会」の効果があると考えられる。</p> <p>「生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整してくれる授業」を望む生徒が 40%と一番多いが、「知識にこだわらず人間性や社会性を養ってくれる授業」「進路実現のための学力を高めてくれる授業」を望む生徒が、相当数（それぞれ 26%、25%）いる。学年が上がるにつれて、学習への意識が高まり、「進路実現のための学力を高めてくれる授業」を望む生徒が増加（1 年 21%、2 年 23%、3 年 32%）していく。生徒の要望は多岐にわたっており、更に授業を工夫しなければならない。</p> <p>家庭での学習時間がきわめて少ない生徒は、徐々に減ってきている。（H25 が 38%→34%→31%→26%→H29 が 24%）これについても継続的に取り組み、更なる改善が必要である。</p> <p>・「安全で安心な学校づくり」 「学校に行くのが楽しい」が 84%、「行事が楽しい」が 94%。学校全体での創意工夫の結果と考える。「気軽に相談できる先生がいる」は 63%と目標を達成しているが、さらに高まるよう継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>・「目的意識を明確に持った進路指導」 進路 LHR や総合的な学習の時間でのキャリア教育で様々な取り組みを行った結果、「将来の進路や行き方について情報を得たり考えたりする機会がある」が 85%となった。</p> <p>・保護者のアンケートでは、「子供は、学校に行くのを楽しみにしている」が 88%、「学校の生徒指導の方針に共感できる」74%、「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えようと努力している」が 83%となっており、学校の指導方針に理解が得られていると考える。今後も情報発信をさらに進め、保護者との連携を高めていきたい。</p> <p>・教職員のアンケート「授業内容を他教科と話し合う」の評価が低いが、研修を年 8 回実施し、教科を越えて校内問題を共通理解するよう努めている。個々の先生方の取り組みが、学校全体の取り組みに広がるように継続的に取り組んでいきたい。</p>	<p>【第 1 回 (H29.6.16.)】</p> <p>●「H28 学校評価」 ○進学実績が伸びてきており、地域からも高い評価をいただいている。 ○「久米田 三つの約束」を打ち出した。昨年度の遅刻件数は一人当たり 2 回。 ○地元での活躍できる生徒の育成に尽力したい。</p> <p>●「H29 学校経営計画」 ①今は足固めの時期であり、生徒指導・学業指導を充実させていきたい。 ②教育産業による通信教育制度の斡旋を開始。進学実績を定着させ、さらに上をめざしていきたい。 ③遅刻指導の指導期間を長くした。 ④NPO 久米フレンドシップによる進路公開講座（公務員・教員・病院見学）は引き続き継続する。</p> <p>●「学校の現状と課題」 ○保護者の生徒・学校への関心が高い。学校に対して協力的であり、PTA 活動への参加も活発である。学校を変えていくためには、保護者の協力が必要。 ○進学実績が上がるほど、メンタル面でのケアも必要になる。思春期は親や教員に悩みをすべて打ち明けるとは少ないが、生徒に困り感ができたときに相談できるネットを張っておくことは必要。生徒に寄り添う、考える時間を共有することで生徒は安心感を得られるのではないかと。 ○共生教室生徒は、一般の生徒と共に学びたいという思いを持ち、週 1 日すながわ高等支援学校に通学している。多くがクラブ活動に参加しており、クラスとはまた違った表情を見せている。クラスでは、緊張している場面もあるが、支援学校で自分と同じ障がいのある生徒と交流できるのは良い。仲良くしたい気持ちはあるが、生徒にはプライドもあり、我慢とプライドとの間で葛藤している。</p> <p>【第 2 回 (H29.10.17.)】</p> <p>●「H29 取り組みと進捗状況」 ○創立 40 周年記念事業 記念品として、ティンパニー、懸垂幕昇降機を寄贈していただいた。記念公演として、クラブ生徒による記念発表を行った。 ○1 学期は大きな問題行動はなかった。遅刻は三年連続で減少。 ○各大学の合格者数は、文部科学省より定員数を守るようにとの指導があり、かなり絞る見込み。今年度教育産業による通信教育制度を導入した。 ○オーストラリア語学研修は、今年度は 30 名募集し、32 名の申し込みがあった。現地の語学学校は内容が良いので、3 年連続で利用している。 ○軽音楽部、太鼓部、陸上部、水泳部が近畿大会出場。 ○「いじめアンケート」を実施した結果、生徒からいじめられているのではないかとという情報が提供されたので、いじめ防止対策委員会で取り上げ、早期の解決を図った。</p> <p>●「学校の現状と課題」 ○遅刻指導については、なぜ遅刻するのか、どう改善すればよいのか、考えさせる指導をしている。 ○今年からすべての府立学校で「いじめに関するアンケート」を実施することになった。「～されたことがありますか？」という項目で、「ある」と書いてきた生徒には聞き取りを行っている。 ○今の中 3 生から大学入試は大きく変わる。 ○学校がよくなったら周りの目が厳しくなる。一人そういう生徒がいたら、みんな悪いと見られてしまう。最近は朝の挨拶も増えてきている。コツコツ指導するのが大切だ。</p> <p>【第 3 回 (H30.1.23.)】</p> <p>●「H29 学校評価」 ○一般入試まで頑張る生徒が増えてきている。センター試験の校内平均点が上昇した。センター試験後も頑張らせる指導をして成果を上げている学校もある。 ○遅刻は減少している。教員が遅刻指導にあてていた時間を別の形での生徒との関わりの時間に充てている。 ○クラブ加入率は昨年度より上昇したが、さらに加入率を上げていきたい。学外での活動状況も調査してはどうか。 ○職員研修を 8 回実施した。 ○家庭学習時間を増やすために、週末課題や小テストを実施している。学習自習を自習形式に変更した。自学自習の家庭学習の習慣につなげたい。 ICT 機器を整備した結果、教え方を工夫する教員が増えた。</p> <p>●「H30 学校経営計画」 ○共生推進教室の授業改善に取り組みたい。 ○いじめを許さない学校づくりを目標としていく。生徒同士で「それはやりすぎだよ」と言えるような関係性をつくるのが大切だ。</p> <p>●「生徒指導方針」 ○現状を乖離している校則がないか見直しを行う。 ○授業中に携帯を操作等した場合は、放課後まで預かり、担任指導後に返却している。 ○頭髪については、集会や考査時にチェックし、担任、生徒指導部で指導している。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>(2) 生徒と保護者の希望を満足させることのできる授業をめざすとともに、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 教員相互の努力により授業力を伸ばさせる。</p> <p>(4) 「地域の星」となる人材を輩出していくために、志の高い生徒を獲得していく。</p>	<p>【わかる授業、充実した授業】</p> <p>(1) 7月の授業アンケートに基づき課題・問題点を確認し授業改善、12月の授業アンケートで改善状況を点検する。学校教育自己診断では、授業満足度の経年変化を見る。</p> <p>(2) 5月には、金曜日の午後、土曜日の午前中に、保護者対象の公開授業を行い、保護者の満足度を高める。6月には各教科から1名選出し、本校職員ならびに他校の教員を対象に公開授業を行う。</p> <p>(3) 教育力の維持のための教員研修を充実させる。学校基本問題研修を年2回実施する。</p> <p>(4) 「久米田カード」を作成し、高石以南の中学校3年生だけでなく、以北の中学にも広く久米田高校の情報を発信していく。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上の維持。(H28年度：72.3%)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」を70%以上(H28年度：86.7%)</p> <p>(3) 研修を年7回以上実施。教員アンケート評価80点以上だったか。(H28年度：平均86.1点)</p> <p>(4) 「久米田カード」を作成し、高石以南の中学校だけでなく、以北の希望する中学校3年生にカードを配布していく。インターネットで最新情報を適宜配信する。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」72.3% (△)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」87.8% (◎)</p> <p>(3) 研修を年8回実施。アンケート平均83.6点 (◎)</p> <p>(4) 「久米田カード」を作成し、高石以南の中学校だけでなく、以北の希望する中学校3年生にカードを配布した。インターネットで最新情報を適宜配信することができた。(○)</p>
2 安くて安心な学校作り	<p>(1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。</p> <p>(2) 在籍定員969名(共生9名を含む)に対して、常時、960名以上の在籍者があるように努力する。</p> <p>(3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。</p> <p>(4) より安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。</p> <p>(5) 警察との連携</p>	<p>【快適で楽しい学校生活】</p> <p>(1) 特別指導件数10件未満を目標とし、皆が気持ちよく規律を守れる学校作りを行う。教育相談等を通じて生徒・保護者の状況を的確に把握し、皆が進級・卒業できる学校作りを実施する。「遅刻指導」「ベル着指導」を合理的に合わせ、遅刻件数の低減を実現する。若手教員による生活指導の充実</p> <p>(2) 安全・安心のアンケートを年2回実施することにより、快適で充実した学校生活を実現し中途退学者が出ないように努める。</p> <p>(3) 新入生の入部について、「部活動勧誘冊子」に改善を加え、年度当初に体験入部を実施し、入部者を拡大する。「ライフサポート室」を効果的に運用するとともに、本校で充実化した「高校生活支援カード」を適正に運用し、「クラス開き」へとつなげていく。</p> <p>(4) 校舎を安全で美しく保つために、廊下、階段及びトイレの整備を行う。また、清掃を徹底することにより、校内の環境を常に美しく保つことを生徒に徹底する。</p> <p>(5) 地元警察と協力して、登校指導を行い、自転車のマナー指導や防犯に対する意識を啓発する。</p>	<p>(1) ア 特別指導件数10件未満(H28年度：8件10名) イ 生徒一人当たり平均遅刻件数を4件未満となるよう努める。(H28年度末：2件) ウ 年6回の始業式・終業式において5分程度の講話をさせる。</p> <p>(2) 969名定員中、960名以上の在籍を維持。(H28年度：960人)</p> <p>(3) 4月当初に1年生体験入部を実施し、クラブ体験実施後の入部率60%以上をめざす。(H28年度：67%) 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」を60%以上めざす。(H28年度：64.8%)</p> <p>(4) 廊下、階段の清掃を徹底する。安全でより美しい校舎を実現する。「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」を60%以上めざす。(H28年度：61.5%)</p> <p>(5) 年に2回、合同で登校指導を行う。1年の交通安全講習会を実施する。</p>	<p>(1) ア 特別指導件数6件6名 (◎) イ 生徒一人当たりの遅刻件数2件。(◎) ウ 年6回の講話を実現する予定 (◎)</p> <p>(2) 969名定員中、965名在籍。(◎)</p> <p>(3) 部活動入部率は71%。(◎) 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」63.3%。(○)</p> <p>(4) 廊下、階段の清掃を徹底する。安全でより美しい校舎を実現する。「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」57.1%。(△)</p> <p>(5) 年に2回、合同で登校指導を行った。1年の交通安全講習会を実施した。(○)</p>
3 目的意識を明確に持った進路指導。	<p>(1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。</p> <p>(2) 自ら主体的に学力や学習習慣の調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。</p> <p>(3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。</p> <p>(4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 平成29年度には、国公立大学・関関同立10人以上、産近甲龍60人以上をめざす。</p>	<p>【自分の将来を見つけ、夢の実現】</p> <p>(1) H25に導入した「スケジュール手帳」は、使用しやすいように改良を加え継続して使用する。1年次の自分の将来を語る1分間スピーチ、1年冬のグループ毎の調べもの学習を積極的に展開する。</p> <p>(2) NPO法人久米田フレンドシップによる進路説明会(公務員・教育・看護)は継続して行う。3年間で5回実施している「学力生活実態調査」で自己の学力を確認し、弱点を補強する。また、年数回、校内で実施している外部模試で、入試の為の実践力をつける。動画講義アプリケーションソフトを学校幹旋し、家庭学習の充実を図る。</p> <p>(3) グラム(アメリカ合衆国)への海外修学旅行を実施する。オーストラリア海外語学研修を実施する。</p> <p>(4) 社会の構成員としての知識・経験を身につけさせ、「共生推進教室6期生(3年生)」の全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 進路結果が、生徒の目標を達成できるように、最後まで粘り強く努力することができるような環境を整える。</p>	<p>(1) 総学LHR志学委員会の研究結果H25より「スケジュール手帳」の継続使用。1年の発表大会を継続して行う。</p> <p>(2) NPO主催の進路説明会を継続できたか。「学力生活実態調査」や「外部模試」を実施する。将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある80%を(H28 85.7%)めざす。</p> <p>(3) 修学旅行は38期生参加者の満足度85%をめざす。(H28年度：93.5%) 海外語学研修は20名以上の参加をめざす。(H28年度：18名)</p> <p>(4) 「共生推進教室6期生の全員進路希望」の実現。(H28年度：全員就職)</p> <p>(5) 国公立大学・関関同立大学で10人以上、産近甲龍大学60人以上、看護専門学校10人以上、公務員等10人以上めざす。(H28年度：難関私立大27名、中堅私立74名、看護専門学校25名、公務員7名)</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」の継続使用ができた。1年の発表大会を継続して行うことができた。(○)</p> <p>(2) NPO主催の進路説明会を継続することができた。(○) 「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」84.5%。(○)</p> <p>(3) 「修学旅行等の38期生参加者の満足度」94.3%。(◎) 海外語学研修に30名参加 (◎)</p> <p>(4) 共生推進教室6期生の全員の就職が内定した。(◎)</p> <p>(5) 3月末現在 国公立大学 8名 難関私立大学 29名 中堅私立大学 74名 看護専門学校 30名 公務員 13名</p>